**令和元年度　学校図書館県内研修会・実施要項**

静岡県私学教育振興会

学校図書館専門部会

部会長 飯田瑞穂

１．研修目標

司書・司書教諭及び図書館関係教職員の交流を深め、県内外の研修や相互の情報交換を通して、読書活動の推進はもとより、今日求められている情報センターとしての役割など学校図書館の充実について広く研究・協議する。

新しい学力を身につけるための２１世型教育、探求型学習について、授業、教科及び教員との連携、図書館を学びの基地とする先進事例などについて図書館関係者及び、各教科担当者との協議、研究の機会としたい。

２．期　　日　　　令和元年６月１９日（水）

３．会　　場　　　静岡聖光学院中学校・高等学校　図書館

 〒４２２－８０２１

 　静岡市駿河区小鹿１４４０

 Ｔｅｌ　０５４‐２８５‐９１３６

 Ｆａｘ　０５４‐２８３‐８６６８

４．参加対象及び人数　司書、司書教諭、図書館関係教職員、教科担当者等　３０人

５．日　　程

９：１５　～　９：３０　受　　付

９：３０　～　９：４５　開　　会

挨 拶　飯田瑞穂部会長（桐陽高等学校 校長）

静岡聖光学院中学校･高等学校 校長 星野明宏 先生

９：４５　～　１０：１５　会場校の図書館活動等について

１０：１５　～　１１：１５　学校見学及び図書館見学

１１：１５　～　１２：１５　講演

 　　新しい学力を身につける探求型学習を支援する図書館になるためには？

～実践を通し図書館を連携基地にした授業アイデアを考える～

講　師　佐野和之 氏　かえつ有明中学高等学校　副教頭・情報センター長

※ かえつ有明中学高等学校における図書館を使った授業の取組み及びそれが当たり前になるまでの経緯など具体的事例に加え、探求型授業を実施する担当者はどうあるべきかなどについてお話いただきます。

１２：１５　～　１３：１５　昼食・休憩

１３：１５　～　１５：３０　ワークショップ

1. 相互関係が高まる「聴く」ワーク
2. パターンカードを使っての図書館利用の授業アイデアを考え、探求学習のヒントを学ぶ

１５：３０　～　１６：００　事務連絡

1. 第４３回私学読書感想文コンクールについて
2. 県外視察研修会について
3. 研修後のレポートについて
4. その他

１６：００ 　閉会

６．その他

(1) 自校の、図書館案内・図書館報・教員用図書館だより・推薦図書一覧・読書ノート・図書委員の活動状況がわかるものなどを、２０部ずつご持参ください。

(2) この研修会に関する要望・質問・意見等の連絡先

 〒 410-0055 　沼津市高島本町8-52

 Tel 055-921-0096 Fax 055-921-9844 　E-mail library@toyo-numazu.ac.jp

桐陽高等学校　図書室　浅井みゆき までお願いします。

７．参加申込

 **６月１０日（月）**までに私学教育振興会ホームページ

**「静岡私学ネット（ｈｔｔｐ：／／ｓｈｉｚｕｏｋａ－ｓｈｉｇａｋｕ.ｎｅｔ）**

 「教職員向け研修会」よりにお申し込みください。

※公立高校の先生

別紙申込用紙に記入の上、ＦＡＸまたはメールにて申し込みください。

なお、申込用紙は（公社）静岡県私学教育振興会ホームページ、「教職員向け研修会」

（URL上記記載）からダウンロードすることもできます。

　　申込先　（公社）静岡県私学教育振興会　　担当：松永

mail：matsunaga@shizuoka-shigaku.net FAX：０５４－２５１－８００２

８．参加会費　　１名　１０００円（資料代） 当日、受付にて領収書と引き換えに集金します。

1. 来校について

※JR静岡駅北口[8]番より『大谷』または『静岡大学』行き。

※所要20分バス停『小鹿公民館前』下車、徒歩15分。

　　　※駐車場利用を希望する場合は、申込時に備考欄に駐車場利用希望と記入してください。

【参照：かえつ有明中学高等学校紹介及び研修目的について】

講師勤務校は、明治３６年に日本初の女子商業高校として創立され、１００年を超える長い歴史の中で変遷を重ね、２００６年より男女共学の中高一貫教育の進学校である。その中でドルフィンという愛称を持つ図書館が今までの図書館という枠組みを超えた知的空間、教科と教科、知識と生徒を繋ぐハブ的な役割を果たしている。こうした図書館を運営されているのは司書の眞田章子先生である。単なる情報センターではなくアクティブラーニングを始めとする教育活動を支える役割を果たす図書館として運営されている。同中学校で展開される思考力、表現力を育成する教科「サイエンス」は「考えること」について基礎的なスキルについて中学校３年間を通して身につけることができるよう独自の教科横断型カリキュラムを組んでいる。そのサイエンスを支えるのがドルフィンである。こうした取り組みを図書館が支える事例としては全国屈指である。そうした中、２０１４年にはドルフィン内の模様替えを実施しバージョンアップも図っている。図書館を中心に展開される教育活動、それを支える設備、組織、人が大切であり、さらに、人が変わっても図書館が使われる授業が当たり前であるためにはどうすれば良いか、それはチームであり協働が必要であるとも言われている。

そうしたことを実践されている講師から午前中に講演いただき、さらに午後に実施する参加者参加型のワーク演習を行う。この研修によって現在学校図書館が現場で抱えている課題への答え、ヒントとなることは間違いのなく、高い知見を得ることができると考えている。さらに、図書館担当者だけではなく参加された多くの教科担当者との情報交換及び協働によって、図書館と教科、授業の距離を縮めるチーム、組織作りのヒントを得ることができると期待している。